社協シンボルマーク

ふれあいネットワーク

曽於市社会福祉協議会情報紙

第71号

令和元年９月13日

手と手

やさしさ100パーセント

第15回曽於市社会福祉大会福祉ポスター 小学生の部　最優秀賞

作品名「ぼくらにできること」　曽於市立柳迫小学校　６年　満倉（みつくら）　湘大（しょうだい）

メッセージ：「地域の方へ日頃の感謝の気持ちと、ぼく自身も６年生になり、できることから始めていきたいという気持ちを伝えたくてこの絵を描きました。自分自身が率先して笑顔であいさつしたり、困っている人に手を差しのべることのできるようになれたらいいなと思いました。」

主な内容

第15回曽於市社会福祉大会 …… Ｐ２
災害への対応について …… Ｐ９
サマーボランティア体験活動2019
ほっとカフェの開催について …… Ｐ10
地域見守り活動に関する協定の締結について
職員採用試験のご案内
お掃除サポート事業のご案内 …… Ｐ11
各種相談窓口のご案内
寄付金品等のご報告

理念　人と人との
つながりを大切に
地域と共に歩む

発行 / 社会福祉法人　曽於市社会福祉協議会
曽於市財部町南俣 504 番地１（財部保健福祉センター内）
TEL:0986-72-0460・0480　FAX:0986-72-0425
E-mail:sohokubu-shakyo@dream.ocn.ne.jp

情報紙「手と手」は、本会のホームページでもご覧になれます。
URL:http://soo-shakyo.or.jp/

この情報紙は、地域住民の皆様からの社会福祉協議会費を財源に発行しています。

社会福祉大会

やさしいまちづくり～

令和元年8月25日（日）末吉総合センターで、第15回曽於市社会福祉大会を開催しました。

多年にわたり社会福祉の向上に尽力された方々の功績をたたえるとともに、曽於市の福祉のまちづくりの推進を図るため、地域住民や福祉関係者一人ひとりが「人にやさしいまちづくり」について共に考える機会となりました。

大会を開催するにあたり、バザー、ブース、ボランティア等、大会運営のご支援に対しまして深く感謝申し上げます。

曽於市社会福祉協議会は、今後も曽於市の「ふだんのくらしのしあわせ」の実現に向けて取り組んでまいります。

①②ホール会場の様子　③受付会場の様子　④⑤バザー会場の様子　⑥⑦ブース会場の様子
⑧大会運営にご協力いただいた学生ボランティア、実習生たち　⑨開催趣旨朗読（泊　康 氏）
⑩社協会長挨拶　⑪被表彰者の方々　⑫曽於市長寿クラブ連合会会長表彰　⑬8020達成者市長表彰
⑭曽於市社会福祉協議会会長表彰　被表彰者謝辞　⑮来賓祝辞　鹿児島県社会福祉協議会会長
⑯⑰⑱最優秀賞福祉作文・ポスター表彰及び作文発表　⑲⑳来場された被表彰者の方々

第15回 曽於市

～みんなの力で 人に

⑩

⑨

⑪

⑭

⑬

⑫

⑰

⑮

⑯

⑳

⑲

⑱

講演 ひとりぼっちをつくらない ～豊中のCSWの活動から～

豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長の勝部麗子氏から「ひとりぼっちをつくらない～豊中の CSW の活動から～」と題して、講演をいただきました。

豊中市社会福祉協議会の取り組みから、福祉の課題を抱え SOS を自ら発信できない方を一人も取りこぼさないこと。閉じこもらず社会参加できるよう、すべての人に居場所と役割がある地域づくりや、公的サービスによる支援に該当しない方を排除するのではなく、地域全体で包摂していく仕組みづくりについてお話しいただきました。

福祉の専門職だけではなく、地域ぐるみで活動することで新しい仕組みの創出につながることや、支援する側が決して救うことを最後まで諦めないことの大切さを学ぶ機会となり、福祉専門職や、現在地域福祉活動を行っている住民からは共感と、感動したとの声が聞かれ、また新たに「自分もできることから活動を始めていきたい」との思いを持たれた方も多数いらっしゃいました。

福祉関係者と住民が一体となり「福祉のまちづくり」に取り組んでいこう、という機運が高まった講演となりました。

パネルディスカッション みんなの力で 人にやさしいまちづくり

パネルディスカッションは、鹿児島県社会福祉協議会事務局長の福田正道氏をコーディネーターにお迎えし、市内で人が集う福祉拠点としての役割を担っている柳迫地域の「皆来館」池田眞由美氏、ミニデイついやまの松村すみ子氏、おろんの会の伊勢悦子氏がそれぞれ日ごろの活動について発表を行いました。講演に引き続き勝部氏もコメンテーターとして加わり、発表に対し感想を述べられました。

柳迫地域福祉拠点施設　皆来館　　池田　眞由美　氏

皆来館は、柳迫校区の深川駐在所跡の空き家を利用し、年齢・性別・障がいの有無等に関わらず、子どもから高齢者まで気軽に集い、地域での様々な活動を行っています。

当初は県の補助事業としてスタートしましたが、現在は「赤い羽根共同募金」の助成金を財源とし、柳迫校区社協事業の一環として住民主体の活動となっています。

活動の最初に行ったのは「まず自分の地域を知ろう」ということから、支え合いマップづくりを行いました。このマップ作成から地域の課題が分かり、ふれあい・いきいきサロンも校区内に 2 か所だったものが、8 か所の開設につながり、その他の認知症サポーター養成講座、ふれ愛子育てサロン、ふれ愛お食事会、児童クラブふれ愛活動、ホットカフェ・介護相談等も展開されるようになりました。

今後は、皆来館に来れる住民だけではなく、来れない人への関わりや、更に出向いて行く事業を取り組んで行きたいと思っています。

ミニデイ ついやま　　松村　すみ子　氏

ミニデイついやまは、介護予防を目的に歌、体操、料理、季節ごとのイベント等を毎週1回財部町の通山公民館で実施しています。利用者は23名程度。平成27年度に市社協のモデル事業としてスタートしましたが、モデル事業終了後は、赤い羽根共同募金の助成金を財源として活動し、昨年度からは市の「介護予防・日常生活支援総合事業」を担う事業所として活動しています。

運営については、自治会内の高齢者が自ら行っており、受け身ではなく「参加者みんなが先生」が合言葉になっています。そのため公民館のトイレ改修や手すり設置などの環境整備も自分たちで行い、それぞれの身体状況に合わせて係の役割分担も行っています。活動を通して自主性と協調性が生まれ、体の機能の維持にもつながっています。

昨年は活動が新聞にも取り上げられ、それぞれが「誇らしい・続けていかないといけない・自分にもまだできることがある」との思いを持てました。今後も運営委員会で十分話し合い、それぞれの希望や反省点を踏まえて、活動を継続していきます。

おろんの会　　伊勢　悦子　氏

おろんの会は、大隅町の坂元地区で発足した団体です。きっかけは、平成23年の地域の「飲ん方（飲み会）」で、地域も過疎化が進み何か活性化させる活動をしていこう、ということでスタートしました。活動の拠点は、住民自らが建てた東屋です。活動内容は、「青空市場」、「鮮魚市場」、季節ごとの催し、地域の見守り活動、近隣の保育園・小学校と連携した世代間交流等を行っています。また、今年度より住民参加型福祉サービス「ほっとボランティア結」も開始しました。活動の上で大きな役割を担っているのが「より愛さかもと」です。私自身はこの施設の管理者です。職員も、おろんの会を支援し、連携した活動を行っています。ただ私自身は管理者ではありますが、一、地域住民として活動に参加しています。おろんの会が出来たことで、地域に居場所ができ、絆も深まり結束が高まりました。また、活動を通して皆が役割を取り戻し、やる気を起こせば、まだまだできることを実感できるようになりました。今日も明日も精いっぱい地域のために、自分のために輝き続けていきたいと思っています。

この発表の後、各団体の地域課題を発見する仕組みや、住民同士が意見交換する場づくり、活動をどのように起こしていけば良いのか発言をいただき、勝部氏にも豊中の活動を踏まえた住民活動の進め方についてアドバイスをいただきました。

今日の国の福祉施策の大きな流れは、「地域共生社会づくり」であり、地域の課題を我が事として様々な課題も、丸ごと対応する仕組みづくりが進められています。地域共生の取組において基盤となっているのは、地域課題を地域住民自らが発見し共有して、その解決方策を話し合う場づくりと、住民主体の活動です。

活動発表や、意見交換は地域課題の解決に向けた地域活動の必要性を知る良い機会となったのではないでしょうか。

表　彰

永年にわたり地域福祉活動に功績のあった方々への社会福祉協議会会長表彰、福祉団体長表彰、8020達成者市長表彰、福祉作文及びポスター表彰が行われました。受賞者を代表して、郡山久夫様が謝辞を述べられました。被表彰者の方々をご紹介します。（敬称略）

社会福祉法人曽於市社会福祉協議会 会長表彰

○表彰の部

民生委員・児童委員　１名　　民生委員・児童委員として、長年その職務に従事し、功績があった方

吉田　良一

社会福祉施設の長及び職員並びに相談員等　８名
社会福祉施設の長及び職員並びに相談員等として、長年在職され、功績があった方

八木　ひとみ　　桐野　るみ子　　迫田　いく子　　榊原　みどり　　立山　和枝　　米澤　圭子
谷口　勝子　　北園　節子

社会福祉団体等の役職員　４名　　社会福祉団体等の役職員として、長年在職され、功績があった方

福岡　富廣　　郡山　久夫　　福満　直樹　　宮内　律子

在宅福祉アドバイザー　９名
在宅福祉アドバイザーとして、地域の中で援護を必要とする方々への声かけや見守りを行い、その活動が他の模範となる方

山口　裕子　　永山　和春　　井上　久子　　精松　和子　　肝付　悦子　　黒木　アヤ子
東﨑　ジユン子　　持永　博子　　園田　マサ子

地域篤行者　１名　　地域福祉社会のなかで、その篤行が顕著であり、特に市民の模範となるにふさわしい方

西留　タツ子

○感謝の部

献身的介護者　３名　　長年にわたり、献身的に介護されている方

小濵　治子　　小牧　康子　　松尾　れい子

福祉団長表彰：曽於市長寿クラブ連合会 会長表彰

役職功労　12名　　長年にわたり、役員として貢献された方

古川　眞一　　佐野　昌照　　山中　ミチ子　　西　松夫　　今村　一秋　　八木　義信
久木田　文雄　　久保　勝志　　吉村　虎男　　黒田　廣行　　長友　務　　松田　隆

8020達成者市長表彰

80歳以上で20本以上の歯を持ち、歯と口の健康づくりの模範となる方　30名

室田　俊博	内村　ミキ	岩迫　喜昭	米澤　美喜	堀口　弘	松下　トキエ
小園　信子	末吉　久代	和田　光則	竹田　清彦	吉田　章市	栫　郁
永田　憲一	吉田　チリ	大久保　忍	竹内　延江	米倉　重治	小鷹　和子
知覧　良子	新名　威	北岩　等	中迫　一九男	川添　トシ子	徳増　光重
山口　ヒロ子	中原　正敏	佐野　賢治	岩永　和人	宮路　生大子	吉満　康三

福祉作文・福祉ポスター

福祉作文

最優秀賞　２名	岩川小学校６年	福満　呼人	末吉中学校３年	甲斐　那奈美	
優秀賞　３名					
柳迫小学校６年	草ノ瀬　諒	大隅北小学校６年	伊地知　日葵	財部小学校６年	高井田　妃奈
入選　11名					
光神小学校４年	肝付　裕太	光神小学校３年	郡山　愛優	深川小学校５年	池之上　美空
深川小学校２年	上薗　寧音	岩川小学校６年	松﨑　惇宏	岩川小学校６年	厚ヶ瀬　澪
月野小学校６年	島見　至安	月野小学校５年	瀬戸口　康介	財部小学校６年	本目　惺流七
財部小学校６年	馬越　海音	財部小学校６年	益吉　真帆		

福祉ポスター

最優秀賞　４名	柳迫小学校６年	満倉　湘大	末吉中学校２年	與倉　笑恋	
	曽於高等学校２年	今西　彩乃	曽於高等学校２年	伊勢　梨花	
優秀賞　８名					
諏訪小学校６年	久保　花咲音	諏訪小学校６年	西　美菜	深川小学校６年	永里　颯
大隅南小学校４年	田中　煌愛	高岡小学校６年	新田　拓海	末吉中学校２年	高井田　真理沙

曽於高等学校２年	池田	舞音	曽於高等学校２年	東	妃捺			
奨励賞　13名								
諏訪小学校５年	新原	美樹	諏訪小学校２年	西留	結花	諏訪小学校１年	福﨑	晴太
光神小学校６年	栄留	琉生	岩南小学校３年	高野	希龍	柳迫小学校３年	迫	悠矢
岩川小学校６年	吉永	百織	月野小学校４年	下津	隼人	月野小学校２年	持留	せいら
月野小学校１年	西川	蓮人	末吉中学校３年	小村	暁仁	曽於高等学校２年	内田	京佳
曽於高等学校２年	駒形	桜						
入選　24名								
諏訪小学校４年	山下	大翔	諏訪小学校２年	平川	凱理	光神小学校１年	白坂	愛瑠
岩南小学校４年	丸鶴	りお	岩南小学校３年	園田	はなみ	岩南小学校３年	高吉	かんな
深川小学校６年	森山	心暖	深川小学校６年	大迫	美来	深川小学校２年	冨田	紫月
深川小学校１年	吉永	來花	柳迫小学校４年	片田	さくら	柳迫小学校３年	草ノ瀬	潤
恒吉小学校６年	税所	璃緒奈	大隅北小学校６年	橋元	冴羽	大隅北小学校５年	小濵	花恋
大隅北小学校５年	小濵	樹	大隅北小学校１年	豊留	颯摩	月野小学校６年	山下	美月
月野小学校５年	持冨	紗希	月野小学校５年	瀬戸口	康介	月野小学校４年	吉田	健伸
月野小学校１年	井上	湧陽	末吉中学校３年	餅田	恭大	末吉中学校２年	三枝	乙葉

◇最優秀賞福祉作文【小学生の部】

「家族は命」

曽於市立岩川小学校　六年　福満（ふくみつ）　呼人（よひと）

「元気な男の子ですよ。」

真っ赤な顔をして、僕の前にあらわれた、ぼくの小さな小さな弟、悠大。今まで、母のおなかの中にいた小さな命、ぼくの弟。顔を梅干しみたいにシワシワにしながら、大きな声でギャーとわめく。ぼくはうれしかった。泣きたくなった。

悠大が、まだ母のおなかの中にいるとき、母はお医者さんに、

「気をつけてください。インフルエンザなどの菌が体内に入ったら、赤ちゃんだけでなく、お母さんの命もあぶないです。」

と言われたそうだ。母はそのことをしばらくだまっていた。ぼくが知ったのは、三日後のこと。

「ちょっと来なさい。」

と母によばれ、そのことを知った。ぼくは泣いた。いつもはあまり泣かないぼくだが、そのときは、たくさん泣いた。ぐっとこらえても、おさえきれないなみだ、悲しみだった。

「だいじょうぶ。母さん、生きるから。」

そう言われても、もし母さんが…。

「ほら、もうあんた、六年生でしょう。そんなに泣かないで。ほら、元気出して。」

ぼくのヒックヒックは、止まらなかった。

その後、母は入院。父、ぼく、二才下の弟との生活が始まった。料理がとくいなぼくは料理たんとう。それ以外は弟と分たんした。そんなに大変とは思わなかった。一番手こずっていたのは、父だ。父はふだん仕事がいそがしく、家事をほとんどやらない。朝、父と目を合わせると、いつも目の下に大きなくまができていた。このまま母が帰ってこなかったらどうしよう。バタバタの一ヵ月は、長いような短いような、不思議な感じで終わった。

そして、今、目の前に小さな命がいる。母も元気に笑っている。大事な命が二つ、家に帰ってきた。最近、弟は笑うようになった。

「ニコッ。」

とする顔は、小さいころのぼくに似ているそうだ。

◇最優秀賞福祉作文【中学生の部】

曽於市立末吉中学校　三年　甲斐（かい）　那奈美（ななみ）

「支え合う大切さ」

私には中学一年の妹がいます。妹は車いすで生活しています。妹は明るく、元気で、動くことが大好きです。車いすテニスをしています。その生活のほとんどを支えているのが母です。でも妹の生活は母だけでは、大変なことばかりです。家族はもちろんですがさまざまな場面で多くの人に支えられています。

七福岬に幸せの鐘があり、美しい音色を聞くことができるというので、ある日、母と妹と私の三人で出かけることになりました。行ってみると、大きな岩の階段がありました。母は車いすを置いて妹をおんぶし、一段一段階段を上りました。そこに岬からの帰りの男女が下りてきて、「手伝いましょうか」と声をかけてくださいました。

また、鹿児島のあるお店では、エスカレーターしかなく、二階に行くときはお店の方にお願いして従業員用のエレベーターを使わせていただきました。しかし、下りるときにはお店の方が近くにいらっしゃらなくて仕方なくエスカレーターを使いました。母が妹をだっこして、私は二階で車いすを持って待っていました。このときも中年の男性が「大丈夫ですか。」と声をかけてくださいました。「大丈夫です。」と答えましたが、その方は「もってあげるよ。」と車いすを持ち、エスカレーターで一緒に下りました。

このことがあってから、私は介護士になろうと思い始めました。そしてさらに私が思いを強くする出来事がありました。

今年の一月、妹は朝から頭痛がひどく、偏頭痛ではないかと思い、薬を飲ませました。しかし、なかなか痛みが治まりませんでした。

翌日の午前三時過ぎに、妹が泣きながら起きて戻してしまいました。すぐに都城の医師会病院に連れて行きました。原因がわからず、吐き気止めと頭痛を和らげる薬をもらいました。それでも治まらず、宮崎大学病院にいきました。ここでやっと、「水頭症」という病気が再発してしまったことがわかりました。入院し、手術をしました。過去にも妹は入院手術を繰り返しています。一番忙しかったのは母です。宮崎と末吉を一時間半かけて行ったり来たりしていました。このとき私は母一人にどれだけ多くのことで負担をかけているのかを近くで感じました。

今、妹は退院して、末吉中学校で過ごしています。妹に学校生活で大変なことはないかと聞いたところ「特にはないけど、すれちがうときにじっと見られるのが嫌だ。」と言っていました。確かに今まで出かけた先でも同じようなことがよくありました。妹はそのたびに嫌な思いをしてきたのだと思います。

妹は、学校の中では、先生方、支援員の方、友達に支えられて過ごしています。これからも多くの方たちに支えられていきます。

私は母に今できることはどんどんしていきたいです。そして、将来介護士の資格をとって、支える側の人になれるように努力したいと思っています。

自助・共助による災害時の対応を　7月大雨による被災状況調査を終えて…

７月３日の大雨災害は、自然の驚異を改めて身近に感じました。民生委員や在宅福祉アドバイザーの方々には、地域の要援護者の安否確認をいち早く行っていただきました。

本会は、４日と９日、被害の大きかった大隅町を中心に要援護者の健康状態や生活に支障はないか等の生活状況調査を実施しました。

訪問してみると、土砂が家屋の壁際まで迫ってきているところ、門柱まで流れ込み出入りができなくなっているところなど、公的な災害支援の対象ではないが、高齢のため自力での作業に無理があり、日常生活に不便が生じている現場もあり、職員４名でその土砂を除去しました。また、ひとり暮らしや高齢者世帯では「自宅が危険だと感じても、誰かの支援がないと指定の避難所へ行くことができない」という方もありました。

平常時の地域の関係が災害時の行動に大きく影響するといわれます。近隣同士の避難の声かけや誘導、安全なご近所に身を寄せることなど、共助の関係づくりが命を守ることにつながると実感した２日間でした。

サマーボランティア体験活動 2019「地域で守る命の講座」

夏休み期間中、柳迫小学校、月野小学校で「地域で守る命の講座」を開催しました。近年、日本各地で災害が発生し、命が失われています。地域でできることはないか、考えるきっかけとなる講座になりました。

学校関係者、校区社協、公民館、在宅福祉アドバイザー、サロン関係者、日赤奉仕団など様々なところから参加協力をいただき、日本赤十字社鹿児島県支部の砂原加津代氏からの「風水害について」の講話の後、災害時の非常炊き出し体験を行い、学校周辺にはどのような危険個所があるか、地域の方と実際に歩きました。

月野小学校近辺の地域のことについていろいろ教えていただきました。

柳迫小学校近辺の危険地区を探して。普段意識しない崩れそうなところなどに目が行きます。

避難所となる会場の月野地区公民館の備蓄品の確認もしました。

非常炊き出し訓練でごはんを作り、地域の方に作っていただいたカレーをかけて美味しくいただきました。

最後に、講座の振り返りをおこない、全日程を終了しました。

子ども達からは「側溝にふたがない所があり、大雨の時はあふれる」また、風水害の時に自分たちにできる役割として、「避難する時は、近所の一人暮らしの人に声をかけて一緒に避難する」など色々な気づきがありました。大人からも、「普段は車で移動するので、通学路を歩き危険個所の把握ができてよかった」など意見がでました。これからも命を守り住民同士のつながりを育む講座等を企画していきたいと思います。

ほっとカフェ 特別開催しました

ほっとカフェとは、介護に関わる想い、在宅生活に関する心配ごとなど、なんでもお話しいただく場です。ご家族を介護していて相談したいことがある方、介護の経験についてお話ししていただける方、ご家族、ご本人を含め参加いただけます。本会の専門職も相談をお受けします。

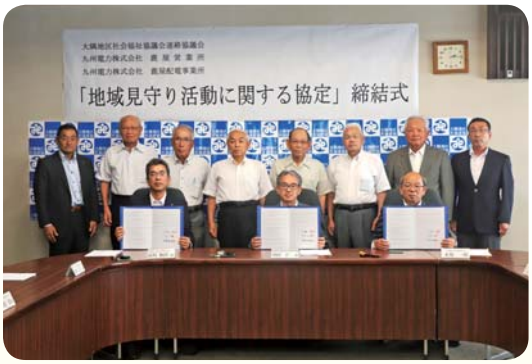
職員によるギター演奏と歌、チェアヨガを行いリラックスしてもらったあと、ご家族の介護について体験談をお話していただきました。

6名によるオカリナ演奏のあと、参加者と職員も入ってお話をする時間を持ちました。

大隅、末吉地域は、７月 20 日、財部地域は７月 28 日に開催しました。それぞれの地域ごとに交流やお話の機会となり、「話を聴いて、1 人じゃないんだと思えた」「同じ立場の方と話ができ、友達になれてよかったです」といった感想もありました。それぞれの地域ごとに参加状況や催しは異なりますが、普段なかなかお話しできないことを話せたという声を多くいただきました。このような場を必要としている方に利用していただけるよう「ほっとカフェ」の機能や役割について広く周知していきたいと思います。

大隅地区内で共に地域の見守りを
～九州電力株式会社と見守り活動に関する協定を締結～

令和元年７月 31 日に大隅地区社会福祉協議会連絡協議会（鹿屋市、垂水市、曽於市、志布志市、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町）と九州電力株式会社鹿屋営業所及び鹿屋配電事業所で地域見守り活動に関する協定を締結しました。少子高齢化、核家族化の進行や独居者の増加等により地域住民をはじめあらゆる地域関係者が連携した見守りが重要となっています。今後、九州電力株式会社が検針や集金等で家庭を訪問した際、異常等に気づいたときには、社会福祉協議会へ情報提供を行い、連携した対応を行っていきます。なお、これまで、曽於市社会福祉協議会と九州電力株式会社で締結していた協定は、破棄され、曽於市を含む広域での協定の締結となります。



保健師採用試験のご案内

下記により、保健師の採用試験を実施します。

申込受付期間：令和元年９月９日（月）から令和元年９月 30 日（月）まで
試　験　日：令和元年 10 月 13 日（日）
合 格 発 表：令和元年 10 月 28 日（月）
採 用 予 定 日：令和２年４月１日（水）
お 問 合 せ：曽於市社会福祉協議会　総務課（時間）月曜～金曜　8：30～17：15

年末年始の自宅の掃除を支援します。～お掃除サポート事業～

曽於市にお住いの障がい者手帳（身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳）をお持ちの方に対し、ご自宅の清掃のお手伝いをさせていただく事業です。皆様からご協力いただいた赤い羽根共同募金のうち歳末たすけあい募金を財源に曽於市社会福祉協議会が助成を受けて行います。

・専門業者の清掃員２名が、ご自宅の掃除をします。
・清掃箇所は、①シンク周り、②換気扇、③トイレ、④洗面所、⑤お風呂、⑥窓ガラス拭き、
⑦ガラスサッシ、⑧ごみの分別（ごみの処分は含みません）
上記の①～⑧に限定させていただきます。
・期間：令和元年 10 月１日から令和２年１月 31 日の間で、個別に日程を調整して行います。
・受付：９月 17 日（火）より受け付けを開始し、上限に達した時点で締め切ります。それ以降の申込についてはキャンセル待ちという形になります。
・自己負担額：1,000 円　（今年度から自己負担があります）

申込・問い合わせ　曽於市社会福祉協議会　地域福祉課　☎ 0986-72-0460・72-0480

心配ごと相談所開設のお知らせ

４月から末吉窓口と大隅窓口の場所が変わっています。御注意ください。なお、財部窓口については変更ありません。
毎月第２、第４木曜日　９時 30 分から正午まで

		9月26日	10月10日	10月24日	11月14日	11月28日
財　部	相談員	棚木原	橋本	鎌原	柳田	棚木原
	場　所	財部保健福祉センター				
末　吉	相談員	竹石	羽嶋	山内	竹石	原田
	場　所	そお生きいき健康センター				
大　隅	相談員	鍋山	大村	津曲	佐伯	鍋山
	場　所	大隅弥五郎伝説の里				

ひとりで悩まないで 弁護士による無料福祉相談窓口

ひまわりの会による無料福祉相談窓口

○相談日時及び会場：

会場	大隅弥五郎伝説の里	財部保健福祉センター	そお生きいき健康センター
相談日時	9月19日(木) 13時から16時まで	10月17日(木) 13時から16時まで	11月21日(木) 13時から16時まで

○相談料：**無料**です。（相談者からはいただいておりません）※１回につき相談時間は 30 分以内
○申込・受付方法：**事前に予約が必要です。**
ひまわりの会　事務局　代表弁護士　山口　政幸
☎ 099-227-0041（受付：平日９時～ 17 時）　鹿児島市山下町 12 番 17 号２階

藤尾法律事務所による無料法律相談会

○相談日時及び会場：

会場	財部保健福祉センター	大隅弥五郎伝説の里
相談日時	10月8日（火）、11月5日（火）、12月10日（火） 13時から15時まで	10月15日（火）、11月12日（火）、12月17日（火） 18時から20時まで

○相談料：**無料**です。（相談者からはいただいておりません）※１回につき相談時間は 30 分以内
○申込・受付方法：**できるだけ事前に予約してください。**
弁護士法人 大隅広域ディフェンダー　藤尾法律事務所　末吉支所
☎ 0986-51-9830　曽於市末吉町本町 1-4-5

たくさんの善意に感謝いたします。

本会では、この善意を地域の皆様の福祉向上のために大切に使わせていただきます。
なお、本紙への掲載につきましては、寄付者の承諾を得てご希望どおりに寄付者名簿を掲載しております。

香典返し寄付金（敬称略）（令和元年７月１日～８月31日）

財部地区

福山孝子　閉山田
水流敏朗　水ノ手
坂元瑞穂　田平
坂元勝志　南
池田ムツ　南
木下三郎　中野
児玉晴美　水ノ手
窪田啓志　下正ヶ峯
徳丸秋雄　七村

末吉地区

小野恵子　宮崎市
田代ノブ　菅渡西

上村通志　新原
金丸香代子　南蔵之町
森義信　西柳井谷
前田茂満　向江東
折田良一　鹿児島市
今別府浩　白毛
土橋保弘　谷野
徳留ヨシ　仲町
田中幸夫　橋野北
吉田貞己　栫井
匿名　３件

大隅地区

徳増ユキ子　曙
逆瀬川ツル子　桂
渡邊正一　土成

一般寄付金品（敬称略）
（令和元年７月１日～８月31日）

末吉地区

坂口　昌彦　新地
子供用車椅子
匿名　10,000円
匿名　１件

大隅地区

[redacted]
大隅町長寿会女性部
タオル50枚

７月大雨災害に対する支援をいただきました

７月大雨災害に対し、早々に熊本県立鹿本商工高等学校より、土砂のかき出しに使用する手作りの鋤簾（じょれん）16本を送っていただきました。鹿本商工高校の皆さんのあたたかいご支援に感謝申し上げます。

マッサージチェアを寄贈していただきました　大川内　ヨシコ様（外園後）

今年で100歳を迎えられる大川内様は、地域でヤクルト販売やダスキンの営業を長年され、自宅でマッサージチェアーを使用されていました。

しかし、病院の入退院が多くなり、使用する頻度が少なくなったとのことで、大川内様から「市もしくは市社協で多くの皆さんに使用してもらいたい」と地域を担当される民生委員を通じてご連絡をいただき、マッサージチェアーを寄贈いただきました

編集後記

普段から地域の皆様には曽於市社会福祉協議会へのご理解と様々なご協力を頂き、心からお礼を申し上げます。

秋空の広がる９月になり、朝、夕は過ごしやすい季節になりました。

そうは言っても、まだまだ日中は暑く、昼夜の気温差が激しく、体調を壊しやすい時期です。また、運動会や行楽等が多くなるシーズンでもあります。熱中症などには充分注意して、お元気にお過ごし下さい。

これからも地域の皆様がお元気に安心して過ごせるように皆様と共に地域福祉事業に取り組んでいきたいと考えております。どうぞご協力の程よろしくお願いします。　T.T.